

大学文書資料室ニュース

Nagoya University Archives News 第34号 2017. 3

目次
Contents

80年史の編纂委員会、編集専門委員会が設置されました	2
内閣総理大臣への状況報告書にみる大学文書資料室	3
「名大の歴史をたどる」の15年	4
ホームカミングデイで創基145周年記念展を行いました	5
企画展「戦争と大学 ふたたび」を行いました	6
『豊田講堂』『歴代総長と名大史』の増補版を刊行しました	7
資料室日誌（抄）	8
松尾清一総長が「名古屋大学で何を学ぶか」と題して講義	10



平成7年（1995）の全学整備委員会に提示された、
東山キャンパス第1次マスター・プランの図

○80年史の編纂委員会、編集専門委員会が設置されました

名古屋大学では、平成31（2019）年の創立80周年、平成33年の創基150周年を記念して、「名古屋大学創立80周年記念史」（仮称、以下、80年史）を刊行することになりました。

この80年史は、かねてより大学文書資料室（以下、本室）がワーキンググループを設置して構想を練り、役員懇談会に提案していたものです。平成28年3月の役員懇談会において、80年史を刊行する方向が概ね定まり、平成28年度に入って、役員会、部局長会、教育研究評議会等の議をへて、同年11月1日付で編纂委員会が発足しました。

「名古屋大学創立80周年記念史編纂委員会」は、総長を委員長、本室室長を副委員長とし、部局長会のメンバー及び本室両部門長を委員するもので、80年史の基本方針等、編纂に関わる重要事項を審議します。そして編集や執筆、史料調査等の実務に関することは、編纂委員会の下に置かれた「名古屋大学創立80周年記念史編集専門委員会」が行います。編集専門委員会は、本室室長を委員長とし、委員は本室歴史資料・大学史編纂部門長及び本室室員1名のほか、名古屋大学の教員その他から総長が任用します。

『名古屋大学百年史』に向けて、今でなければできない史料調査や聴き取りを行い、『名古屋大学五十年史』刊行後30年間の大変革期やノーベル賞受賞者の続出などのことを盛り込み、学術的評価に堪えうる内容でありながらも、一般にも読みやすいものとして刊行するのが今回のコンセプトです。平成29年度から、本格的に刊行に向けての作業を始める予定です。

今、80年史の刊行が必要な理由

30年間の空白

- ・名大の大変革（4年一貫教育、大学院重点化、法人化、国際化など）を歴史として位置づける

ノーベル賞

- ・名大最大のアピールポイントの1つであるノーベル賞受賞とその背景を沿革史に

創基150周年記念

- ・創基150周年事業として、名大の「応援団」の形成をめざす（自校史教育、同窓生、市民など）

100年史に向けて

- ・関係者のヒアリングなど、今でなければ不可能な史料収集事業をおこなう

○内閣総理大臣への状況報告書にみる大学文書資料室

公文書管理法における「国立公文館等」に指定されている大学文書資料室（以下、本室）は、同法第26条第1項に基づき、内閣総理大臣に対する「特定歴史公文書等の保存及び利用の状況報告」を毎年行っています。今回は、平成28（2016）年7月に提出した平成27年度の状況報告書の内容の一部から、本室の状況を簡単に紹介してみたいと思います。なお下記の数値は、いずれも平成28年3月31日現在のものです。

本室の、特定歴史公文書等（歴史公文書等のうち本室に移管されたもの）専用書庫の書架総延長は788mです。平成27年度に25m分が新規排架された結果、未排架は238mとなりました。そのほか、未整理で文書箱に入れて管理しているものが残っており、それらもいずれは排架する必要がありますので、それほど余裕があるわけではありません。

本室が、目録に載せて一般公開している特定歴史公文書等の量は28,811点です。特定歴史公文書等に関する内閣総理大臣策定のガイドラインでは、特定歴史公文書等は受け入れてから1年以内に「排架」（目録に載せて一般公開すること）するよう指示されていますので、この点数は本室が保有する数とほぼ同じです。なお、この数の全てが法人文書ではありませんが、法人文書の場合、点数はファイル数に相当します。

平成27年度に、本室が名古屋大学の事務組織から移管を受けた法人文書は430ファイルです。ただこの数は、移管が遅れていた部局から、数年分がまとめて移管された分が含まれており、平成26年度末に保存期間が満了したものは370ファイル程度です。通常本室には、毎年このくらいの法人文書が移管されて来るわけです。

平成27年度における、本室への特定歴史公文等の利用請求件数は1,081件です。本室が審査を行い、利用に制限を課することが適当と判断したものは、そのうちの102件です。ただし、全冊を利用不可としたのは1件で、あとは必要な箇所のみを遮蔽して利用に供しました。利用制限の理由は、全てが個人に関する情報でした。

なお、上の数値は、あくまでも今回の報告対象である特定歴史公文書等に限ったもので、それ以外の歴史資料等（もちろんこれらも名古屋大学の歴史に関わるものです）は含まれていません。本室では、特定歴史公文書等とそれ以外の歴史資料等を合わせて、約4万6千点の史料を一般の利用に供しています。

The screenshot displays the NUA Online Search System interface. At the top, it says 'NUA オンライン資料検索システム' and '名古屋大学HOMEへ'. Below that, there's a breadcrumb trail: '大学文書資料室HOME > オンライン資料検索 > 検索条件入力'. The main section is titled '検索条件入力' and contains a search form with the following elements:

- Keyword field: キーワード (スペース区切りで複数指定可)
- Search Range: 対象範囲 (---年~---年)
- Document Type: 資料区分 (radio buttons for すべて, 特定歴史公文書等, 歴史資料等)
- Buttons: 検索 (Search) and リセット (Reset)

At the bottom left, there is a link '前のページに戻る' (Return to previous page). The footer contains 'Copyright © Nagoya University Archives All Rights Reserved.' and '名古屋大学 大学文書資料室'.

平成28年6月にリニューアルした、本室のオンライン資料検索システム（本室 HP）。
本室が一般公開している全ての史料を検索できる。

○「名大の歴史をたどる」の15年

大学文書資料室では、名古屋大学の月刊広報誌『名大トピックス』の裏表紙で、「ちょっと名大史」を連載しています。連載が始まったのは、平成14（2002）年5月の同誌第108号からです。それ以来、臨時号を除く毎月の定期号では、1回も休むことなく連載を続けて来ました。平成29年3月で179回を数えます。

連載開始当時、『名大トピックス』は原則として表紙と裏表紙だけがカラーでしたが、裏表紙は単に最後のページというだけで決まった様式はありませんでした。分かりやすい文章と数枚の写真で名古屋大学史のトピックを紹介する「ちょっと名大史」が始まったことにより、同誌の「最後の顔」が定まったといえるでしょう。その後、同誌が平成17年4月の第143号から全ページカラーとなり誌面もリニューアルされると、「ちょっと名大史」の形式も一新されて現在に至ります。

内容的には、連載当初は名古屋大学の内外に残る記念物やそれにまつわる話題を紹介することをコンセプトにしていました。その後まもなく、記念物の有無にこだわらず、名古屋大学史に関わる裏話、素朴な疑問、貴重な史料、時には名古屋大学史の根幹に関わる事項などもテーマとする、幅広い内容に変わっていききました。

「ちょっと名大史」は、常設展示室を持たない本室にとって、名古屋大学の歴史やそれに関わる史料、あるいは最新の話題を、折に触れて学内外に発信できる貴重な場になっています。これからも、大学から望まれる限りは連載を続けていきたいと思えます。



名大史

① 香菓園と愛知医科大学予科歌碑

戦前にあった愛知医科大学（1929～1931）は現医学部の前身ですが、この大学には4年間の学基本科とは別に、3年間の「予科」がありました。戦前は、語学や基礎教育（リベラルアーツ）を旧制高等学校・専門学校などで学んでから大学に行きましたが、この愛知医科大学予科もこれに相当します。

香菓園（かぐの）のこのみ、そのの、は、愛知医科大学予科の同窓会（協会）の設立5周年を記念して1932年に竣工。名古屋大学に遷都されました。園の名前は歌碑の詞に採られている縁が、若時香菓（ときむく）のかぐの、このみ」と別称されていることに由来します。歌碑に記されている愛知医科大学予科の校歌（訳詩）はつぎの通りです。

此の園は 緑の川
 流るる 水は清
 けき 心は静
 けき 志は高
 けき 夢は遠
 けき 道は長
 けき 人は多
 けき 花は美
 けき 鳥は鳴
 けき 虫は舞
 けき 草は生
 けき 木は茂
 けき 石は固
 けき 土は厚
 けき 空は青
 けき 雲は白
 けき 月は明
 けき 星は輝
 けき 朝は爽
 けき 夕は静
 けき 夜は静
 けき 夢は遠
 けき 道は長
 けき 人は多
 けき 花は美
 けき 鳥は鳴
 けき 虫は舞
 けき 草は生
 けき 木は茂
 けき 石は固
 けき 土は厚
 けき 空は青
 けき 雲は白
 けき 月は明
 けき 星は輝



▲香菓園の全貌



▲石の歌碑



▲歌碑の位置

ちょっと名大史

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

179 宇宙地球環境研究所（前編）— 附置研究所の歴史 2 —

前編紹介した環境医学研究所は、設置以来名称が変わらず、施設も変わっていませんでしたが、宇宙地球環境研究所は、2012（平成24）年10月に太陽地球環境研究所地球環境研究センター（地球環境研究センター）を統合して創設されたもので、今回はその前身、太陽地球環境研究所の歴史を振り返ります。

太陽地球環境研究所は、1978（昭和53）年10月の創設名古屋大学の発足と同時に、「空電研究所」として発足しました。空電りは空によって飛ぶ電気のことで、当時ばかりに空電研究の先駆者であった空電（空電）工学部教授が在籍しており、研究員も兼任していました。

空電研究所は、電気工学部の空電工学専攻の一部に置かれました。名古屋の電機工学は、電機工の起りが空電工学の発展の向かい合っていることで、すでにここには

空電教授らの軌跡が記されています。

空電研究所は、研究室の2棟門前でしたが、その後は研究室が太陽電機、宇宙電機、太陽放射、原子電機研究所へと名称が変更され、研究部門の拡充が行われ、1995年には空電研究所となり、また研究施設も充実し、2000年代初めに60年代に比べて4つの敷地が設置されました。その後、大気の科学的研究や太陽地球システムの研究への研究が求められるようになり、1998年頃から研究所の広域の棟が加えられました。

そして1999（平成11）年4月、理学部附属宇宙観測環境研究所の創設により、1つの大部門からなる「太陽地球環境研究所」に改称され、宇宙科学地球科学に関する日本唯一の空電研究所として活動を開始しました。

2008年には、本館を東山キャンパスに移し、それまでの敷地の施設は、豊田研究所となりました。









1 1978（昭和53）年10月の創設名古屋大学の発足と同時に「空電研究所」として発足しました。空電りは空によって飛ぶ電気のことで、当時ばかりに空電研究の先駆者であった空電（空電）工学部教授が在籍しており、研究員も兼任していました。

2 空電研究所は、電気工学部の空電工学専攻の一部に置かれました。名古屋の電機工学は、電機工の起りが空電工学の発展の向かい合っていることで、すでにここには

3 空電研究所は、研究室の2棟門前でしたが、その後は研究室が太陽電機、宇宙電機、太陽放射、原子電機研究所へと名称が変更され、研究部門の拡充が行われ、1995年には空電研究所となり、また研究施設も充実し、2000年代初めに60年代に比べて4つの敷地が設置されました。その後、大気の科学的研究や太陽地球システムの研究への研究が求められるようになり、1998年頃から研究所の広域の棟が加えられました。

4 2008年10月に本館を東山キャンパスに移し、それまでの敷地の施設は、豊田研究所となりました。

5 2008年10月に本館を東山キャンパスに移し、それまでの敷地の施設は、豊田研究所となりました。

6 2008年10月に本館を東山キャンパスに移し、それまでの敷地の施設は、豊田研究所となりました。

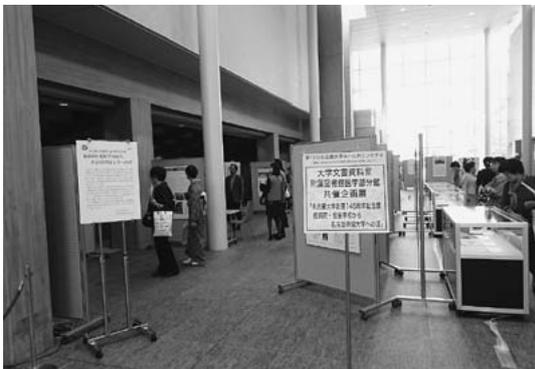
資料室だより①

○ホームカミングデイで創基145周年記念展を行いました

大学文書資料室（以下、本室）は、附属図書館医学部分館と共催で、平成28（2016）年10月15日（土）に開催された第12回名古屋大学ホームカミングデイにおいて、名古屋大学創基145周年記念展「仮病院・仮医学校から名古屋帝国大学への道」を行いました。本室は、第1回ホームカミングデイ以来、毎回企画展を実施してきましたが、他部局との共催は初めての試みです。

この展示は、名古屋大学が平成33（2021）年の創基150周年に向けて様々な取り組みを行っていることに鑑み、学内・学外に対して「創基」という歴史の見方を広くアピールする意味を込めて企画したものです。本学の創基である明治4（1871）年の名古屋県仮病院・仮医学校の設置から、専門学校、医科大学をへて、本学の「創立」である昭和14（1939）年の名古屋帝国大学の設置に至るまでの歴史を対象をしぼり、これに関するパネルや資料の展示、スライドショーの上映を行いました。

今回の目玉は何と言っても、附属図書館医学部分館医学部史料室所蔵のたいへん貴重な資料の実物を展示したことです。これらの資料の多くは、医学部史料室で常設的に展示されていますが、同室は常時開放されてはいないため、ホームカミングデイでの展示は大きな意義があると考えました。実際、奈良坂源一郎のプレパラート見本や桐原式軟性胃鏡といった物品のほか、書物の精巧な解剖図のページなどが、ホームカミングデイに参加した多くの人々の関心を引いていました。



展示全景（豊田講堂ホワイエ）



展示品を熱心に観覧する人々



展示品（奈良坂源一郎のプレパラート見本など）



展示品（桐原式軟性胃鏡など）

資料室だより②

○企画展「戦争と大学 ふたたび」を行いました

大学文書資料室（以下、本室）は、企画展「戦争と大学 ふたたび 一軍医と銃後」を、平成28（2016）年11月25日（金）から12月26日（月）を会期に、名古屋大学中央図書館2階ビブリオサロンにおいて開催しました。附属図書館医学部分館との共催によるものです。

この企画展は、附属図書館医学部分館が同年の6月から9月にかけて同館（鶴舞キャンパス）でおこなった同表題の企画展を、東山キャンパスで開催したものです。平成26年8月に本室と附属図書館医学部分館が共催した「戦争と大学—1931～1945 官立名古屋医科大学・名古屋帝国大学—」は、本学の歴史に即した、専ら満州事変以後の戦争に関する内容でしたが、今回は大学も戦争も近代日本全体を対象としたうえで、「軍医と銃後」というサブテーマを設定しました。

東山での展示にあたっては、本室の所蔵史料や作成パネルを増補して展示しました。増補した史料は軍医になった名古屋大学医学部の前身学校の卒業生のもの、パネルは軍医の速成を任務とした名古屋帝国大学附属医学専門部を紹介するもので、これらによって、展示内容が本学の関係者や地域の皆さんにとってより身近な内容になりました。また、鶴舞よりスペースをかなり広くとれることを考慮して、「近代日本の軍医とその養成」「戦場と軍医」「戦時下の大学と科学」「銃後の諸相と結末」という4つのコーナーを設けて展示を再構成しました。

鶴舞での展示を含め、この企画展の詳しい内容は、『名古屋大学大学文書資料室紀要』第25号（平成29年3月刊行）に展示記録として掲載される予定です。



企画展全景



名帝大附属医学専門部の授業風景（展示パネルに掲載）



「戦場と軍医」コーナーの一部



「銃後の諸相と結末」コーナーの一部

資料室だより③

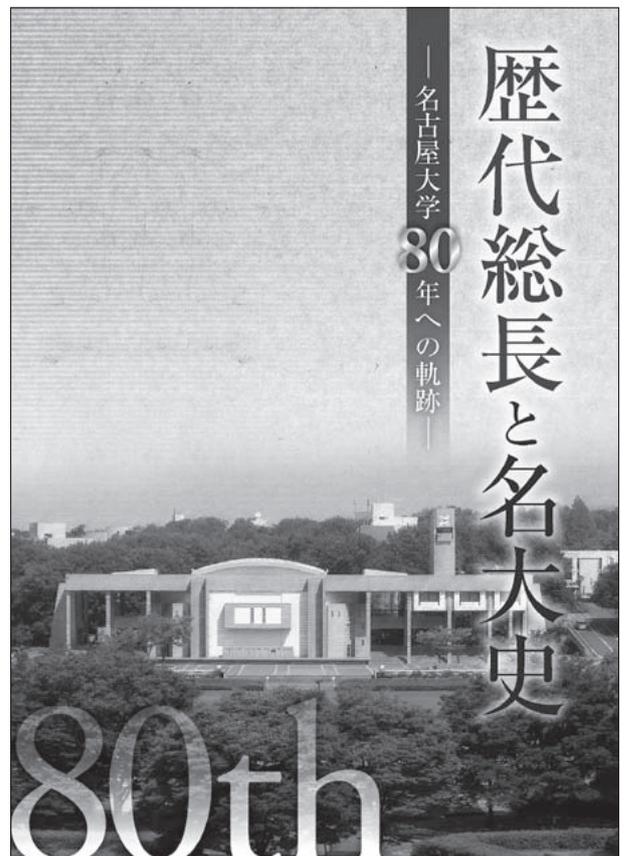
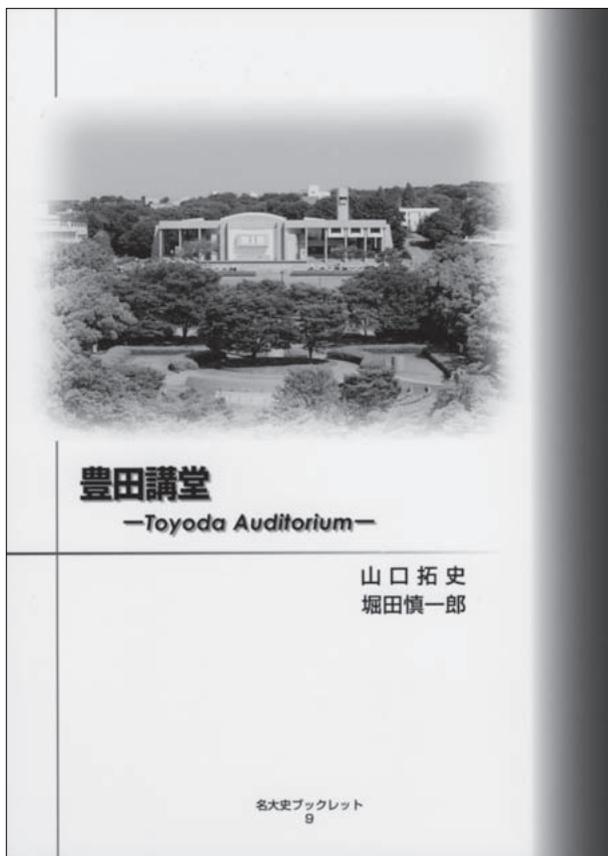
○ 『豊田講堂』『歴代総長と名大史』の増補版を刊行しました

大学文書資料室（以下、本室）では、平成28（2016）年9月に『豊田講堂—Toyoda Auditorium—』（名大史ブックレット第9巻）の、平成29年3月に『歴代総長と名大史—名古屋大学75年の軌跡—』の増補版を刊行しました。

『豊田講堂』は、初版が平成16年に刊行され、名古屋大学のシンボリックな建物である豊田講堂の歴史を手軽に知ることができる読み物で、全学教育科目「名大の歴史をたどる」のテキストとしてはもとより、さまざまな場面で活用されて来ました。平成22年には、平成19年に竣工した全面改修・増築工事のことなどを増補した第二版が刊行されました。そしてこのたび、在庫が払底したことを受けて第三版を刊行することになりました。第二版刊行後に相ついで、国の登録有形文化財への登録、BELCA 賞受賞などのトピックが増補されています。

『歴代総長と名大史』（名古屋大学発行、本室編集）は、初版が平成26年に刊行され、同年のホームカミングデイの参加者にもれなく配布されました。本ニュース第32号でも紹介しましたが、名古屋大学の歴代総長全員と前身学校の主な校長等を取り上げ、その個性に注目しつつも、それぞれの在任時代の事蹟についても紹介し、全体として名古屋大学史を通観できるようになっています。今回は、好評につき在庫がなくなったこともあり、現在の松尾清一総長のページ等を増補して、『歴代総長と名大史—名古屋大学80年への軌跡—』と改題して刊行しました。

入手をご希望の方は、本室にご連絡ください。1部であれば無料ですが、多部数をご希望の場合は、原価額の代価をいただくことがあります。



資料室日誌（抄） 平成28（2016）年2月～29（2017）年1月

- 2月3日 新検索システムについて業者と打合せ（堀田慎一郎室員・佐分さとみ室員・田渕宗孝事務補佐員）（5/12にも打合せ）。
- 2月16日 佐分室員が財務会計システム講習会に出席。
- 2月23日 堀田室員が杉浦昌弘特別教授を訪問し、資料の整理について相談。
- 3月4日 黎明会（岡崎高等師範学校同窓会）から資料を受贈。
- 3月8日 吉川卓治部門長・堀田室員が金沢大学資料館を視察。
- 3月16日 大学文書資料室（以下、本室）室会議を開催（構成メンバー：竹下典行室長・吉川部門長・堀内敦部門長・堀田室員・佐分室員・井田幹恵係長・柳内佑介事務職員）。
- 3月24日 役員懇談会に80周年記念史の編纂を提議。
- 3月31日 『名古屋大学大学文書資料室紀要』第24号、『名古屋大学大学文書資料室ニュース』第33号を刊行。
堀内部門長が退任。
山田裕輝事務補佐員が退職。
- 4月1日 木下孝洋総務部長が歴史公文書部門長に就任。
大山僚介事務補佐員が着任。
- 4月5日 パネル展「名大の歴史と現在—図表で見る沿革とキャンパスの145年—」を開催（～5/1、於中央図書館）
- 4月6日 堀田室員が新規採用職員研修で名古屋大学の歴史について講義。
新任教員研修でポスター及び刊行物を展示。
- 4月12日 平成28年度全学教育科目（全学教養科目）「名大の歴史をたどる」を開講（前期）。
- 4月13日 堀田室員がホームカミングデイ実行委員会に出席（以後、5/18、11/9にも出席）。
- 4月14日 木下部門長が大学文書資料室を視察・ヒアリング。
- 4月20日 本室室会議を開催（構成メンバー：竹下室長・吉川部門長・木下部門長・堀田室員・佐分室員・井田係長・柳内事務職員）（以後、5/25、6/15、7/20、9/7、10/19、11/16、12/21に開催）。
- 5月22日 祖父江逸郎名誉教授より歴史について聴き取り（大川四郎愛知大学教授・蒲生英博附属図書館医学部分館特任専門員・堀田室員）。
- 5月28日 吉川部門長が、名古屋大学博物館主催の大学連携キャンパス講座で「名古屋大学のあゆみと地域社会」と題して講演。
- 5月31日 田渕事務補佐員が退職。
- 6月9～10日 吉川部門長・堀田室員・佐分室員が全国公文書館長会議及び同関連行事に出席（東京）。
- 6月14日 新しいオンライン資料検索システムの運用開始。
- 6月21日 全学教育科目「名大の歴史をたどる」で松尾清一総長が講義。
- 7月7日 名古屋大学混成合唱団から、旧男声合唱団関係資料を受託。
- 7月12日 80周年記念史ワーキンググループを開催（吉川部門長・伊藤彰浩教授・羽賀祥二教授・堀田室員）。
- 7月14日 教育推進部教育企画課より法人文書移管。
- 7月19日 総務部広報渉外課より法人文書移管。
- 7月21日 「平成27年度に作成された印刷物の提供について」の依頼を全学へ通知。
- 7月29日 総長講義の映像を「名大の授業」(NUOCW)で公開。
- 8月5日 研究協力部研究支援課・同社会連携課から法人文書移管。
- 8月15～16日 全学一斉夏期休暇にともない閉室。
- 8月26日 文系事務部教務課より法人文書移管。
- 9月1日 堀田室員がパートタイム勤務職員研修で名大史について講義（12/6にも講義）。
- 9月4日 役員懇談会で創立80周年記念史編纂委員会等の設置が承認。
- 9月9日 文系事務部経理課より法人文書移管。
- 9月13日 部局長会に創立80周年記念史編纂委員会規程案を提議。
- 9月15日 企画部企画課より法人文書移管。
- 9月16日 第1 共同利用施設の203号室書庫の警備シ

- システムを運用開始。
- 9月28日 工学部・工学研究科総務課より法人文書移管。
- 9月29日 教育推進部教育企画課(教養教育院事務室)より法人文書移管。
- 9月30日 名大史ブックレット9『豊田講堂』の増補版(第三版)を刊行。
「石岡繁雄の志を伝える会」と石岡資料の取扱いについて打合せ。
- 10月3日 全学教育科目「アーカイブズ学入門-文書史料の世界をあるく-」を開講(後期)。
- 10月11日 医学部・医学系研究科総務課より法人文書移管。
ホームカミングデイ企画展のため附属図書館医学部分館から資料を借用(11/8返却)。
- 10月12日 附属図書館情報管理課より法人文書移管。
- 10月15日 ホームカミングデイにて名古屋大学創基145周年記念展「仮病院・仮医学校から名古屋帝国大学への道」を開催。
- 10月18日 教育研究評議会が創立80周年記念史編集委員会規程案を承認。
黎明会(岡崎高等師範学校同窓会)から資料を受贈。
- 10月20日 理学部・理学研究科・多元数理科学研究科事務部、文系事務部総務課より法人文書移管。
- 10月27日 工学部・工学研究科総務課、同経理課、教育推進部基盤運営課より法人文書移管。
- 11月1日 総務部総務課より法人文書移管。
- 11月2日 創立80周年記念史編集専門委員会の人事について松尾総長と面談(吉川部門長・木下部門長・堀田室員・井田係長)。
- 11月7日 教育推進部入試課、教育学部附属学校より法人文書移管。
- 11月8日 附属図書館医学部分館から企画展で展示する資料を借用(1/24返却)。
- 11月11日 附属図書館情報システム課より法人文書移管。
- 11月14日 財務部契約課より法人文書移管。
- 11月15日 医学部・医学系研究科経営企画課より法人文書移管。
- 11月16日 渡辺芳人理事と創立80周年記念史編集専門委員会の件等について面談(吉川部門長・木下部門長・堀田室員・井田係長)。
- 11月24日 辻篤子特任教授と創立80周年記念史編集専門委員会委員への就任について面談(吉川部門長・木下部門長・堀田室員・井田係長)。
- 11月25日 企画展「戦争と大学 ふたたび一軍医と銃後」始まる(～11/26)。
教育推進部学生支援課より法人文書移管。
- 12月1日 本室の来年度人事について打合せ(竹下室長・吉川部門長・木下部門長・堀田室員・井田係長)。
情報推進部情報推進課より法人文書移管。
- 12月7日 研究所事務部より法人文書移管。
- 12月7～8日 堀田室員が「自然科学系アーカイブズ研究会」で講演し、研究会に参加(於土岐市、岡崎市)。
- 12月16日 内閣府大臣官房公文書管理課の小熊利彰専門官が来室、非公式に視察。
- 12月18日 堀田室員が全学教育科目「東アジアの文化・海外研修」で講義。
- 1月11日 竹下室長が退任。
本室事務補佐員の募集を公示(～1/27締め切り)。
- 1月13日 磯谷桂介理事・事務局長が室長に就任。
- 1月19日 本室事務補佐員候補者(本年度末定年退職予定者)面接(木下部門長・吉川部門長・市川真康総務課長・堀田室員)。

○松尾清一総長が

「名古屋大学で何を学ぶか」と題して講義

平成28（2016）年6月21日（火）、大学文書資料室部門長の吉川卓治教授が開講する全学教育科目「名大の歴史をたどる」の1回として、松尾清一総長が「名古屋大学で何を学ぶか？一人類社会の幸福と持続的発展に貢献する「勇気ある知識人」になるために一」と題して講義を行いました。

松尾総長としては2回目の講義です。前年は就任したばかりでしたが、今回は大学運営が軌道に乗りつつある状況を受けて、前回とかなり違った内容を聴くことができました。当日は、正規の受講生のほか、この回に限り聴講を許可した名古屋大学（以下、名大）の教職員を合わせ、約250名がI B電子情報館大講義室に集まりました。

総長は、名大が育成をめざす人物像として掲げる「勇気ある知識人」について、名古屋大学学術憲章を参照しつつ、具体的な事例を挙げながら丁寧に説明しました。総長は、日本は世界に先駆けて超高齢社会をむかえるが、実は世界各国も日本を追うように高齢化して行くのであり、日本がこの問題を解決できれば、逆に世界をリードする国になれるチャンスでもあると説きます。名大は、高齢化しても活力を失わず、多様性が尊重されつつ人類の幸福と発展が持続する社会をビジョンとしていると述べました。また名大はこれを実現するため、自然科学だけではなく社会科学・人文科学の分野も強化し、諸分野が協力して問題の解決に取り組む体制を構築すると述べました。そして21世紀は文理融合型の学問の時代になるとして、とくに若いうちは専門領域にとらわれない幅広い勉強をしておくことが重要で、それが将来大きく伸びる秘訣であると学生たちに熱心に語りかけました。

この講義の様態を撮影した動画を、インターネット（「名大の授業」<http://ocw.nagoya-u.jp/>）で視聴することができます。



講義をする松尾総長



講義室の様子

名古屋大学大学文書資料室ニュース 第34号 Nagoya University Archives News No. 34

名古屋大学大学文書資料室
室長 磯谷 桂介（理事・事務局長）
部門長 吉川 卓治
（歴史資料・大学史編纂部門、
教育発達科学研究科教授）
部門長 木下 孝洋
（歴史公文書部門、総務部長）
室員 堀田 慎一郎（特任助教・専任）
室員 佐分 さとみ（契約職員・専任）
係長 井田 幹恵
（総務部総務課文書法規係）
事務員 河合 成典（大学文書資料室）
伊藤 由美（大学文書資料室）

発行日 2017年3月31日

編集
発行

名古屋大学大学文書資料室
名古屋市千種区不老町〒464-8601
電話：(052) 789-2046
FAX：(052) 788-6222
E-mail: nua_office@cc.nagoya-u.ac.jp

印刷

株式会社荒川印刷
名古屋市中区千代田2-16-38